

YA 冬のオススメ本紹介

YA担当より

寒い季節になりましたね。
 こんな寒い日には、あたたかい室内でゆったり読書をしながら過ごすのもいいですよ。
 YAコーナーの本の入れ替えで新しく入った本たちが、みなさんをお待ちしています♪
 ぜひ、あなたにぴったりの1冊をみつけてください。

① 「この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた」

ルイス・ダートネル／著
 東郷 えいか／訳
 河出書房新社
 (YA書架 504ダ)



これは現代文明が滅びた後、科学を応用した技術を使い、高度な文明を再建するための本です。
 食糧や衣服、医薬品など、今店に売ってあるものを一から作り出さなければいけない、原材料の調達から始めなければならぬとしたら？
 必要な物はお店に行けば手に入る生活に慣れてしまった先進国の人々は、驚くほど物が作られる過程を知りません。さあ！自給自足の生活を送るためにシミュレーションしてみましょう。



② 「夏目漱石、読んじゃえぼ？」

奥泉 光／著
 香日 ゆら／漫画・イラスト
 河出書房新社
 (YA書架 910+)



文豪といわれる夏目漱石。文豪の作品といえは難しそう…というイメージがあるかもしれませんが。この本では、「漱石の作品っておもしろいの？どう読めばいいの？」という疑問を、マンガと簡単なポイントで解説しつつ、小説や読書の新たな楽しみ方を教えてください。
 漱石の本を読んだことがない人でも、作品に触れるきっかけとなる1冊です。



③ 「もういちどそのことを、」

五味 太郎／作・構成
 寺崎 誠三／写真
 クレヨンハウス
 (YA書架 Eテ クリスマス)



こんなところや、あるいはこんなところに、きみはとっくに気づいているだろうけれど、いる。
 この本にはなにがいては、はっきりと触れていません。履き古したスニーカーや、錆びた釘、ろうそくの炎…。日々のなかで目にする様々な物や風景が教えてくれる懐かしくて大切な何か。写真とイラストで描かれるクリスマス絵本。忘れていた気持ちが呼び覚まされるかもしれません。



④ 「人にはどれだけの土地があるか」

トルストイ／原作
 柳川 茂／文 小林 豊／絵
 いのちのことば社
 フォレストブック
 (YA書架 Eコ)



働き者の農夫パホームは、妻と共に、畑仕事にやりがいを持って勤しんでいた。だが、ある日訪れた、街に住む妻の姉が2人こう言い放った。「でも、いくらえらそうなことを言ったって、自分の土地じゃないんでしょ」
 そこから際限なく土地を求め続けた彼が最後に手にした土地の広さとは。「人の欲」や「本当に必要なもの」について考えさせられる絵本です。

